

令和7年度全国学力・学習状況調査 瑞浪市の結果について

令和7年10月 瑞浪市教育委員会

1 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 前述の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象 小学校第6学年(274人)、中学校第3学年(248人)の児童生徒

(3) 実施日 令和7年4月17日(木)

2 教科に関する調査結果の概要

(1) 各教科における市と全国との平均正答率の比較

(「◎」+5.0以上「○」+1.1~+4.9「-」-1.0~-1.0「△」-1.1~-4.9「▲」-5.0以下)

	小学校 6 年生	中学校 3 年生
国語	-	○
算数・数学	△	○
理科	△	◎

(2) 各学年の各教科における市と全国との領域別平均正答率の比較

①小学校6年生【国語】

言葉の特徴や 使い方	情報の扱いに 関する事項	我が国の言語文 化に関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
○	△	-	-	-	△

②小学校6年生【算数】

・測定については、昨年度、該当の問題なし

数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
△	▲	-	△	△

③小学校6年生【理科】

「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
△	△	▲	-

④中学校3年生【国語】

・情報の扱いに関する事項、我が国の言語文化に関する事項については、該当の問題なし

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等		
言葉の特徴や 使い方	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
△	○	◎	○

⑤中学校3年生【数学】

数と式	図形	関数	データの活用
○	◎	-	○

⑥中学校3年生【理科】

「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
○	◎	◎	-

3 今後に向けて

(1) 各教科について

小学校 国語

改善ポイント① 日常的な話し合いの内容を、「位置付ける」「分ける」「比べる」「広げる」をもとに図や矢印などを使って、メモとして残す。

話し合いの内容を質問する内容を四角で囲み、線でつなぐことでインタビューの流れを整理することに弱さがみられた。教科書のp. 293には、「図を使って考えよう」というページがある。ここには、考えを整理したり、広げたりする時に役立つ内容が「位置付ける」「分ける」「比べる」「広げる」という項目で分けて提示されている。日常的に話し合いをする際に、記録する係をつくり、話し合いメモとして、これらの内容を活用する。話し合いメモは、学級への報告の際に利用する。

改善ポイント② 相手意識や目的意識をもとに説明的文章を読み、吟味・検討をする。

資料と資料を結び付けたり、複数の資料から言葉や文を取り上げたりすることに弱さがあった。教科書の説明的文章の中には、図表が使われているものがある。図表が入れられている意図について吟味・検討する学習活動を仕組むことはよくみられるが、その際の根拠として、その文章がどのような目的で書かれているものなのか、また、誰に向けて書かれているものなのか、ということを織り交ぜて考えられるよう指導していく。

小学校 算数

改善ポイント① 「向かい合った1組の辺が平行である」ということに着目するために、それを活用し、根拠とする活動を仕組む。

台形のとらえ方に弱さがみられた。図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や図形の構成の仕方、図形の軽量について筋道を立てて考察することが重要である。

辺の長さや平行する一組の辺の位置関係が変わることによって、台形の判断ができなくなっていることが考えられる。そのため、様々な図形について、「向かい合った一組の辺が平行である」ということから、台形であるかどうかを説明する活動を位置付ける。また、2(1)では、コンパスを使って、平行四辺形を作図することにも弱さがみられた。台形を作り、根拠を問う活動を位置付ける。

改善ポイント② 単位時間の役割をはっきりとさせる(その時間に何を指導すべきか、また、何を身に付けさせるのか)を単元の終末から考え、指導する。

五角形の面積を求める際に、三角形と台形、三角形とひし形に分けてとらえられるものの、それぞれの図形の面積の求めることに弱さがみられた。5年生「四角形と三角形の面積」の学習では、平行四辺形、三角形、台形、ひし形を学んだ上で、それらを学んだ上で、図形の性質を用いた面積の求め方を発展的に扱う。指導する際には、これらのことを見通した上で、単位時間の役割をはっきりとさせる。また、逆に、既習の内容を使うと求積が可能な問題を作成し、互いに解き合う、という学習活動も取り入れる。

小学校 理科

改善ポイント① 異なる金属でできているが用途が同じ物体をもとに授業を展開する。

アルミニウム、鉄、銅の電気の通し方に関わる理解に弱さがみられた。回路の途中にさまざまな身近なものをつなげ、電気を通す物と通さない物を調べる学習活動が考えられる。その中で、調べた結果を表に、分類、整理していく中で、空き缶などは、金属でありながら、電気を通すものと、通さないものに分かれる結果となる。このように結果が分かれる理由を考えさせ、金属でも通さない物があることを知識として身に付けさせる。

改善ポイント② 操作や手順の理由を考えさせ、確認できるようにする。

顕微鏡を操作して適切な像にするためにピントを合わせる技能を身に付けることに弱さがみられた。顕微鏡の使い方について、手順ごとにポイントとその理由を考えさせ、説明する。例えば、「調節ねじを回し、対物レンズを離しながらピントを合わせるのは、なぜか。」「プレパラートが対物レンズと接触することを避けるため。」など。ピントを合わせる際に、ピントが合う瞬間を見逃さないように注意させたいが、ピントが合った状態をイメージできない児童もいることが予想される。そこで、電子顕微鏡を使い、先に、ピントがあった状態をみせておくといよい。

改善ポイント③ 「疑問、予想、仮説、解決への見通し」の流れを日常の授業を通して行い、鍛えていく。

差異点や共通点を基に問題を見だし、その内容を適切に表現することに弱さがみられた。指導要領には、「(1)イ 植物の育ち方について追究する中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。」とある。差異点や共通点をもとに、「なぜだろう。」と疑問からはじめ、予想、仮説を立て、解決の方法を発想する。このような授業展開を日常的に大切にしていけることが必要となる。

中学校 国語

改善ポイント① プレゼンテーションは、発表者の意図（対象や目的）を明確にしてから作成、検討をする。

聞き手を想定することやスライドの役割の理解に弱さがみられた。言語活動例の各学年のアには、紹介や報告、説明や提案、主張など、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて、聞き手が質問や意見、助言、評価などを述べる活動が例示されている。この時に大切なのは、誰を対象に、何のために、どのような状況で話すのかを具体的に考え、それらに内容が合っているかを判断することが大切である。

スライドを使って、プレゼンテーションをする際には、上記の内容をもとに、発表者の意図を明確にした上で作成し、その意図に沿ったものとなっているのかを検討する。

改善ポイント② 文脈に沿った漢字や意味を選択するために、日常から、語句の意味を捉える練習をする。

文脈に即して漢字や意味を選択することに弱さがみられた。思い込みや直感によって選択せず、論理的に選択することが必要となる。そのために、普段から、漢字の成り立ちと部首を理解することや例文や熟語を覚えていくこと、分からない漢字や言葉が出てきた際に、辞書を使って意味を調べることをあわせておこなっていききたい。その際には、調べた語句・漢字にチェックをし、記録として残していくことも有効である。記録として残していく方法としては、辞書などに直接マーカーでチェックをすることや語句ノートをつくることが考えられる。また、日本には、名文と呼ばれる文章や詩が多くある。中には難解な語句や漢字の入ったものもある。名文を知り、暗唱したり、意味を知ったりする中で、語句や漢字を理解していく。

中学校 数学

改善ポイント① 素数を正確に理解するために、素数に含まれないものの理由を考えさせる。

素数の理解に弱さがみられた。素数を理解するために、「1とその数自身以外に正の約数を持たない、2以上の自然数のこと」や「1とその数自身でしか割れない数」というような意味を知識として正確に覚えることは、大切にする。また、1が入らないのは、1はそれ自身でしか割ることができない、つまり、1つの数でしか割ることができない数であるため、など、入らない理由についても、述べられるように、授業中に問い返すなど、知識を理解させる方法については、工夫をする。

改善ポイント② 結論を先に設定し、段階的な練習と人に説明することを通して、身に付けさせる。

証明することに弱さがみられた。苦手な生徒は、「何をしてよいのか分からない」など、そもそも抵抗感を覚えている可能性がある。しかし、論理的に筋道を立てて「なぜそうなるのか」を説明していくことができるようにしたい。そのために、理由をしっかりと書かせること、必要となる条件を覚えることは、引き続き大切にしたい。また、見通しがもてない生徒のために、まず、結論を設定するように指導する。結論から考えて、そのために何が必要なのかを逆にたどっていくことができるようにする。最初は、部分的に答える問題、次に全部書く練習をさせていくなど、段階的に練習を行うことに加え、書いた証明を声に出して、人に説明することを行わせる。

中学校 理科

改善ポイント① 系統性を大切にし、自分事と理解できるように、地域教材や学校周辺の地形を利用する。

地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することに弱さがみられた。小学校4・5・6年生において、水のしみ込み方や水のはたらきによる土地の変化、また、地層の学習を行う。砂や小石、水をペットボトルに入れ、ふたをして混ぜ、その後の様子を観察したり、土、砂、砂利の複数の異なる種類の土を用意して水のしみ込む速さを観察したりする実験をすることで、それらを学んでいる。中学校では、系統性を理解した上で、地形や地層、岩石の観察をすることが必要となる。その際、地域教材を活用したり、学校周辺の地形を利用したりするなど、自分事として理解できるように工夫するとよい。瑞浪市は、地層を学習する上でも、豊富な地域教材がある町である。

改善ポイント② 学んだ事象を日常と結び付けて指導する視点を持ち続ける。

気圧を利用している身近な事象について、日常と結び付けることに弱さがみられた。指導要領には、気象観測の際に、気象要素として、気温、湿度、気圧、風向きなどを理解すること、また、気圧を取りあげ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見い出して理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて理解することが述べられている。目に見えないものであるため、それを前提とし、実験を通して、理解をさせていくことが必要である。

また、この問題に限らず、日常生活との関連付けは、今後も大切にされるべきことである。日常生活において、事象がどのように利用されているのか、という視点を指導する際にもっておきたい。ちなみに、気圧を利用したものは、掃除機や、スプレー缶、魔法瓶、真空断熱製品、真空食品保存容器などがあげられる。

(2) 生活習慣や学習環境について

生活習慣や学習環境についての項目	小学校	中学校
朝食を毎日食べている	○	○
毎日同じくらいの起床・就寝している	起床○就寝◎	起床○就寝◎
自分にはよいところがある	○	◎
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	◎	◎
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりする(習い事は除く。)	◎	◎
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	◎	◎
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	○	○
あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	○	◎
学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	○	◎
生活習慣については、昨年度に引き続き、高い数値を示している。自分のよさを感じながら、教師や仲間との関わりの中で、互いに協力したり、互いに高め合おうとしたりしていることがうかがわれる。これらのベースにあるのは、困った時に相談できる教師や大人の存在であることが考えられる。また、地域の方に関わってもらっている、という実感がとてもあり、地域へ貢献する気持ちも強い。		
小中学校で全国の割合を下回った項目	小学校	中学校
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(2時間以上)	△	▲
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(2時間以上)	△	▲
家庭学習については、昨年度に引き続き、充実させていく必要があることを示している。		
ICTについての質問項目	小学校	中学校
小学校5年生(中学校1、2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか	◎	◎
文章を作成することができる	▲	◎
インターネットを使って情報を収集することができる	—	—
情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる	△	○
学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる	▲	◎
アナログとデジタルのバランスを考えながら、小学校で基本的なことを学び、中学校で活用ができるようにこれからも指導をしていく。		

(3) 学習に関わって

学習に関わって：肯定的な意見（している、当てはまると回答したものの和）の比較		
生活習慣や学習環境についての項目	小学校	中学校
授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ	○	◎
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	○	◎
先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	○	◎
国語・算数・理科の勉強は得意	国▲ 算○ 理○	国◎ 数○ 理◎
国語・算数・理科の勉強は好き	国△ 算○ 理○	国◎ 数○ 理◎
国語・算数・理科の授業はよく分かる	国△ 算△ 理○	国◎ 数－ 理○
国語・算数・理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	国－ 算○ 理○	国○ 数○ 理◎
小学校・中学校で児童生徒にしっかりと寄り添い、指導することが、義務教育期間中に、児童生徒に「得意」「好き」「役立つ」実感をもたせることになったことは確かである。引き続き、児童生徒に資質・能力を身に付けさせるために、指導改善することを大切に、その先に「得意」「好き」「役立つ」という実感をもたせられるようにする。		

※本調査で明らかにできるのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部や、学校における教育活動の一側面についてである。